

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(教務)

I 自己評価		岐阜県立益田清風高等学校	学校番号	56		
1 学校教育目標	【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校					
2 分掌における現状の分析	○どの生徒にも丁寧な学習指導を行うことができている。また教員間で授業研究（内容・方法）が意欲的に行われている。 ▲学習指導方法の引き継ぎに課題がある。					
3 分掌の抱える課題	よい実践や新しい教育情報の職員間における共有促進					
4 今年度の具体的な重点目標	(1)教科の特徴を生かし、学習意欲を喚起し深い学びを得る授業の推進 (2)学科の特性に応じた生徒の将来につながる授業の推進 (3)授業規律・学習環境を大切にするとともに、見通しを持った授業を推進					
年 度 目 標		年 度 末 (途中) 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基 準あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
教科指導	①「育みたい資質・能力から逆算した3年間の学習指導内容の研究」、「よりよい教育実践のためのICTの有効活用」を本年度の学習指導における校内研修の全校統一テーマに設定し、学習指導内容の精選、および生徒の学習意欲向上に努めます。	① 教員の丁寧な指導により生徒の学習意欲が向上し定期考査ごとの成績不振生徒数が減少する。	① 全てのクラスがその授業の課題に応じて意欲的に真摯な学びを展開できている。 欠点をとる生徒が減少しなかったことに関しては方策を考えていく。	B	○通常授業における学習指導に加えて、手当てが必要な生徒に対する授業時間外における学習指導、進路目標に応じた個別指導等丁寧に行うことができている。 ▲授業担当者が替わっても学習指導方法の引き継ぎが上手く出来るような手立てを講じていく。	A B C D
	②①の推進のために、教員間の研修を重ね、授業の改善に取り組みます。	② 年間2回（5月と11月）の公開授業週間で、教員全員が①に係る公開授業を実施・参観し、教科内での交流を活発に行う。	② 全ての教員が公開授業を行った。ICTの有効活用について各教科で研究授業を行い、授業内容や教授方法等の意見交流が活発に行われた。（報告書提出済。）また県教委の出前講座を依頼しICT機器の職員研修を行った。	B	○各種研修で職員の意識は確実に高まっている。「特別教室にもICT機器の設置を！」という意欲的な声も多く耳にした。 ▲各教科で行われた実践内容について教科間でも交流が行われるよう働きかけていきたい。	
	③「目標を明確にした授業」「生徒が主体的に取り組む授業」「言語活動の活発な授業」を継続して実践し、その取り組みを高める支援を推進します。	③ ICT機器の教職員研修を進めることで「生徒及び保護者に対するアンケート」の学習に関する評価が向上する。	③ 今年度はICT機器が設置される前のアンケート実施となった。 【結果】 生徒アンケートにおいては「学習評価」について向上をみせたがその他は昨年並み、保護者アンケートでは「授業を通じた学力向上」の面で昨年並みであったが「理解を高めるための少人数授業展開」の項目で評価を落とした。	B	○ICT機器を使い視覚に訴えかけるわかりやすい授業が実践されつつある。	
II 学校関係者評価		実施年月日：令和2年1月29日	12 来年度に向けての改善方策案			
学校評議員のご意見 ・ICTを活用した授業は大変よい。今後も大いに活用し、生徒が興味を持ち分かりやすい授業を考えていただきたい。 ・多様化する生徒に対して、個々に合った分かる授業が大切だと思う。柔軟性を持って指導をしていく必要があると思う。		・授業担当者が替わっても学習指導方法が引き継がれるよう、年度末に教科内で引き継ぎ文書を作成する。 ・教務通信を発行し、ICT機器の効果的な使用方法や新教育課程に向けての動き等の情報共有をはかっていく。				

【別添2】（様式例1）

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(進路)

I 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号

56

1 学校教育目標	<p>【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。</p> <p>【めざす学校像】 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校</p>
2 分掌における現状の分析	<p>○地元企業ガイダンスなどの地域と連携した取組による地元就職者数の確保（50%）と就職率100%の達成、分野別ガイダンスなどの進路行事による生徒の進路意識の向上</p> <p>▲3年間を見通したキャリア教育の推進</p>
3 分掌の抱える課題	<p>学科別・コース別に多様化する進路指導におけるキャリア教育の充実</p>
4 今年度の具体的な重点目標	<p>(1)情報提供・ガイダンス機能の充実 (2)キャリア教育の推進 (3)地域を活性化する人材育成</p>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
進路指導	① キャリアガイダンスや上級学校による学部・学科説明会、地元企業を中心とする職場体験学習、企業見学会、パネルディスカッションを実施します。	① アンケートを用いての学校評議委員、保護者、生徒による進路関係の項目の評価が向上する。	①種々のガイダンスを計画通りに行い生徒の進路意識も向上した。特に地元企業によるパネルディスカッションは、生徒の地元志向が高まるなどの成果があった。	A	○進路について真剣に考える姿勢が身についた。 ▲日々の授業や家庭学習にどうつなげるかが課題である。	A B C D
	② 外部模試等の結果を踏まえて、放課後の就職・公務員補習や進学補習、土曜講座、休暇中の特別補習を行い、弱点強化を図ります。	② 外部模試における客観的評価が向上する。具体的数値目標が達成される。	②放課後補習や土曜講座、模試等により学習習慣が定着し、学力向上や弱点強化を図ることができた。	B	○補習等により公務員合格者が増加した。(H30:6名→R01:11名) ▲不登校や発達障害経験生徒への就職指導が課題である。	
	③ 保護者対象進学・就職説明会や、地元企業ガイダンス、保護者による模擬面接を実施します。	③ 行事に招く外部講師や保護者による本校に対する評価が向上する。就職地元定着率が向上する。	③地元企業の協力や就職補習により、地元飛騨地区就職50%と就職内定率100%を達成できた。	B	○地元企業との信頼関係が生まれてきている。 ▲地元から出たい生徒に、地元に向かせる指導が課題である。	

II 学校関係者評価 実施年月日：令和2年1月29日

<p>学校評議員のご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下呂市での受入れ企業や職種の有無の問題もあるが、地元で働き、地域を支えてくれる若い人材が増えてほしい。 ・生徒の進学先・企業・高校が連携して、インターンシップや企業見学などの実施ができないだろうか。また、地元には拠点はあるが、取引先は都会である多くの地元企業の魅力を生徒に伝えたい。 	<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下呂市の将来を見据え、進学者に対しても地元への愛着を持たせ、進学先卒業後の進路として地元企業を意識できるような取組を、本校入学直後の1年次より実施していくべきであると考えている。
--	--

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(生徒指導)

I 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号

56

1 学校教育目標	<p>【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。</p> <p>【めざす学校像】 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校</p>
2 分掌における現状の分析	<p>○身だしなみ指導や分掌、学年会・各分掌・管理職・他の機関との連携を通じて、情報共有しスムーズな対応・運営ができています。</p> <p>▲生徒指導が、問題行動の指導から教育相談や発達障害等に対する知識不足により、対応が遅れる。このため、研修等を通じて知識の向上を図ることが必要である。</p>
3 分掌の抱える課題	<p>未然防止に対する教育活動や研修等を充実させ、教育相談や発達障害に関する知識を備える必要がある。また、保護者対応と外部機関を利用した改善策を考える必要がある。</p>
4 今年度の具体的な重点目標	<p>(1) 学校規律、授業規律の確立 (2) 自他の人権や生命を尊重する意識の確立 (3) 問題行動の未然防止と事後指導</p>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導	①登下校指導、身だしなみ指導、時間厳守、忘れ物、授業態度などについて、職員の意思疎通を図り、生徒に指導します。	①規範意識を持って、落ち着いた学校生活が送れている。また、正しい服装の着こなしができています。	④ 教員間の意思疎通が図られ、登下校の指導が行き届き、生徒の身だしなみ意識が向上している。また、授業規律も良好である。	B	○外部から、好感の持てる身だしなみであると評価いただいた。 ▲女子の色付きリップが少し目立つようになった。	A B C D
	②いじめ調査や生徒観察により、職員の共通理解を図り、情報共有することにより、いじめの未然防止に努めます。また、情報モラル教育を充実させ、情報モラル(SNS)意識を高めます。	②いじめ問題や情報モラル問題が発生しない。特にSNS等を使った画像（製造・所持・ばらまき）や誹謗中傷がない。	⑤ 当事者、保護者、学校が連携し、情報共有していることから、いじめや情報モラルに関わる対策が、早期にできている。	C	○生徒の様子について、アンケートを増やしたことで、情報が早期に集まるようになった。 ▲潜在化した情報モラルによる問題に対して、注意喚起が必要。	
	③ 問題行動の未然防止に努め、生徒への指導を行います。また、関係職員との連携を密にし、早期発見・早期対応(解決)に努め、事後指導まで粘り強く行います。	③問題行動の件数が減少する。同じ生徒が繰り返し問題行動を起こさない。	⑥ 生徒の問題行動に対する意識の向上を図ることができ、未然防止につながっている。教員間で、起こってからの指導より、起こさない指導を心がけている。	B	○外部機関と連携し、情報共有し、早期に対応できるようになった。 ▲事後指導について、生徒の実態に合った方策を考えていく必要がある。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月29日

<p>学校評議員のご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が全体的に大変よくなってきている。特に、制服を変更して、服装の乱れもなくなり、学校全体が落ち着いた印象でよい。 ・毎朝、先生方が校門前に立ち、挨拶をされている姿を拝見している。きめ細かい指導に感謝している。 	<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の姿やアンケートを通して、情報共有し的確に判断し指導する。 ・職員間や他の生徒の情報をもとに、早期発見・早期対応を心がけて行きたい。 ・学校、外部機関との連携を深め、適切な生徒支援を進めていきたい。
--	--

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(特別活動)

I 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号

56

1 学校教育目標	【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校
2 分掌における現状の分析	○生徒主体で生徒会活動がなされ、学校発展のために貢献しよく努力している。また、ボランティア活動など、地域への協力を積極的に行っている。
3 分掌の抱える課題	・他の分掌等との連携を徹底し、業務分担の主となることを明確にしていく必要がある。 ・生徒の減少による予算の縮小化を改善する必要がある。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 生徒会活動の活性化 (2) ボランティア活動を通して地域へ貢献 (3) 部活動、学校行事に真剣に取り組む

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
特別活動	① 三大学校行事（対面式、球技大会、文化祭）への取り組みを通して、生徒が自発的、自治的に考えて行動できるように支援します。地域との連携を意識して活動します。	① 行事の取り組みが生徒主体となっている。自ら考える姿勢、現状に満足せず改善しようとする姿勢が生徒にみられる。地域連携を深めていく意識が見られる。	① 生徒会が自発的に取り組むことで、より充実した行事となるよう努力をしてきた。常に、学校全体を見渡し、自校への誇りを持って取り組めるよう、課題解決に励み活動している。	B	○生徒主体で、行事の計画・運営ができ、充実した活動であった。 ▲学校全体で意思疎通を図り、統一した計画のもとで、行事の運営をすることが大切である。	A B C D
	② 部活動への自主的な取り組みを通して、生徒が自ら成長できる機会と実感が得られるよう支援します。地域との関わりを意識して活動します。	② 部活動への取り組みが生徒主体になっている。部活動を通して人間性を高め成長しようとする意識・姿勢が生徒に見られる。地域と連携した活動が見られる。	② 部活動を活性化させるために、積極的に参加し、生徒主体で活動を行っている。また、部活動を通して、精神面でも大きく成長している。さらには、地域連携での活動も行った。	A	○地域の方と共に協力しながら活動を行っている。 ▲毎年、継続はしているが、反省点の改善や再考が必要であり、新たな取り組みも必要である。	
	③ 生徒会執行部を中心としたMSリーダーズ活動、ボランティア活動への自発的な参加を促し、地域社会の一員としての自覚を深め、地域社会と積極的に関わろうとする姿勢、地域に貢献する心を育てます。	③ 地域社会の一員としての自覚が生徒に見られる。地域社会と積極的に関わり貢献する意識を持ち、実際の行動に移せている。	③ 地域社会の一員としての自覚を持ち、地域貢献に積極的に協力できるような活動を行っている。特に生徒会環境厚生課を中心に、施設訪問、暑中見舞い、年賀状などの福祉活動と連携した活動をしている。	B	○地域の方と共に協力しながら活動を行っている。 ▲継続はしているが、前年度の反省を活かし、新たな取り組みや再考が必要である。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月29日

学校評議員のご意見 ・部活動の希望制は、人間関係づくりやコミュニケーションが苦手な生徒に対しては妥当な対策であり、部活動をしないという選択肢は必要だろう。 ・部活動が希望制となっても生徒の加入率が高いことがありがたい。部活動は生徒にとって生きがいにもなるので、元気よく頑張ってもらいたい。	12 来年度に向けての改善方策案 ・地域の方との交流が、学校行事等に活かせるような活動を推進していくことで、行事の活性化を図る。 ・部活動については、働き方改革や生徒にとって望ましいあり方など、国・県の方針に従い、活動の意義や活動時間の見直し等を整理する。
--	--

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書（保健安全）

I 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号

56

1 学校教育目標	<p>【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。</p> <p>【めざす学校像】 (1) 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2) 進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3) 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4) 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校</p>
2 分掌における現状の分析	○防災教育を行ったうえでの避難訓練の実施による危機意識の高揚と非常時対応への取組が向上した。
3 分掌の抱える課題	学校生活の全般において、命・健康と安全に対する根本的な意識づけをより意図的におこなう活動。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 心身の健康についての知識と実践する力の養成 (2) 「生命を守る」訓練、「助け合う」行動に繋がる教育の推進 (3) 安全面等での地域と連携

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
保健安全	① 自らの身体と精神の健康を考え、生活を見直す保健安全教育、感染症予防のための保健指導に取り組めます。 ② 多様な災害に対し、自らの生命を守り、適切な判断・行動のできる生徒の教育に取り組めます。 ③ 環境美化に関わり貢献できる生徒の行動習慣を身につけ、地域の避難拠点としての学校づくりに取り組めます。	①心身の健康に関わる諸調査を実施して判断する。	①保健室に来室する生徒の訴えを分析し、その対応について連携を図った。	B	○教育相談との連携、専門医との連携・協力ができた。	A
		②学校の体制づくり、訓練または教科における指導などを総括的に評価する。	②避難訓練の実施、防災週間におけるシェイクアウト訓練、教科における防災マップの学習、2年生における防災教育の推進をおこなった。	B	○防災に対する日常的な意識は高まってきている。常に変化する防災に対する学習機会の確保を更に進めたい。	B
		③環境美化に対して生徒会活動による見直しを行い、外部の要望に対応、評価を参考に判断する。	③生徒会を中心に校内、部活動の協力により、地域の環境美化活動をおこなった。	B	○生徒の地域の環境美化や挨拶をになう学校である意識ある行動は日常化してきている。 ▲地域に生徒が積極的に目を向ける手法が必要。	D

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月29日

12 来年度に向けての改善方策案

<p>学校評議員のご意見</p> <p>・最近、いろいろな災害が起きているので、万が一の時に備えて、防災対策や避難行動の指導を続けてほしい。各家庭でも考えておく必要がある。</p>	<p>・生徒の防災教育に対しては、身近な問題やタイムリーな事案を活用して防災意識の高揚に結び付けることが有効だと考えられる。本年度は関西で阪神淡路大震災の実体験にもとづく話を教員からしてもらったが、自分のできる安全確保とは別に「いざという時に自分にできること・地域において果たすべき役割」について考える機会について発展させたい。</p>
--	--